

(シンポジウム紹介)

地球温暖化ならびに地球人口の増加に伴う数々の危機的問題、例えば、食料危機、化石燃料などの資源の枯渇・エネルギー危機など、21世紀の世界の展望は極めて暗い。また、わが国における2011年3月11日の東日本大震災は、食料、電力などのライフラインが一瞬にして広域的に危機的狀態に陥ること、同時に東海・東南海地震に向けた対策を速やかに講じることの切迫性を如実に教えた。かかる短・中・長期的な展望に鑑み、日本大学の教育・研究の使命は上記の諸問題の解決に向け、わが国のみならず国際的規模で多大に貢献することである。

本シンポジウムではエネルギー問題を取り上げる。国連の気候変動に関する政府間パネルは2050年の世界エネルギー消費の77%を再生可能なエネルギーで供給できる可能性を指摘しているが、果たして再生可能なエネルギーは主役となりうるのか？再生可能なエネルギーの開発にかかるコストは？本シンポジウムでは再生可能なエネルギーを有効に利用することの重要性を認識し、生物資源科学、工学関連技術の現状を分析することにとどまらず社会科学的な分野も加えた総合科学的な視点から日本大学としての新たな将来展望について議論の場を設けることを目的とする。シンポジウムの性格上、参加対象者は本学の教職員・学生のみならず一般市民とする。

本シンポジウムは次の5部から構成される。第1部はエネルギー政策に関わるもので、なぜ再生可能なエネルギーなのか？コストの問題は？など工学はじめ環境科学、経済学など社会科学的な視点から明確にし、その上で自然エネルギーに目を向け、第2部はバイオマス（生物資源）エネルギーの創出技術そして第3部では生物以外の自然エネルギー創出技術の現状ならびに展望、第4部はエネルギー創出の次に問題となる貯蔵ならびに伝送をセットとするシステムの構築を扱い、第5部ではエネルギーに関わるビジネス・雇用の創出も含め再生可能なエネルギーシステム社会の展望について総括する。